

平成 27 年度病害虫発生予察指導情報（ネギ：白絹病）

平成 27 年 8 月 12 日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

県西部平坦地の砂畑ほ場において、夏ネギを中心に白絹病の発生が見られます。今後の気象条件によって、秋冬ネギでの発生も予想されますので、防除を徹底しましょう。

2 情報の根拠

- (1) 本年の現地白ネギほ場における白絹病の発生時期は平年並であったが、梅雨明け前後の高温と適度な降雨のため発生が増加し、7月27日の夏ネギにおける調査では、例年に比べ発生が多い傾向であり、一部で甚発生ほ場が見られた（表1）。
- (2) 本病害は土壌伝染性病害であり、前年発病株上に形成された菌核が伝染源となり発病する。昨年度もやや多い発生量であり、一部で甚発生ほ場が見られたことから、伝染源はやや多いと考えられる。
- (3) 本病は、25～30℃程度で多湿条件の時に発病が多くなる。気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、降雨がある場合には発病に適した気象条件となる可能性が高い。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 現在発病が認められるほ場では、アフエットフロアブル 1,000～2,000倍液の1L/m²株元灌注、土寄せ時にモンカットフロアブル40の2,000倍液またはモンガリット粒剤6kg/10aを株元に散布する。
- (2) 現在発病が認められない場合でも、例年発病が認められるほ場ではモンカット粒剤4～6kg/10a、モンガリット粒剤4～6kg/10a、リゾレックス粉剤20～30kg/10aなどを予防散布する。
- (3) 多発ほ場では、収穫後にディ・トラペックス油剤30～40L/10a、ガスタード微粒剤またはバスアミド微粒剤20～30kg/10aなどで土壌消毒を行う。
- (4) 同一成分及び同系統の成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数及び収穫前日数に注意して薬剤を選定する（表2、表3）。

表1 調査ほ場における白絹病の発病状況(7月27日調査)

地点	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率(%)	発病株率(%)
境港	5	2	40.0	4.8
米子	5	3	60.0	19.2
合計	10	5	50.0	12.0
(参) 平年値	—	—	15.7	1.6

表2 ネギ白絹病の主な防除薬剤(平成27年8月5日現在の農薬登録内容)

薬剤名	希釈倍数	処理量	使用時期	本剤の使用回数	有効成分
アフエットフロアブル	1000～2000 倍		生育期但し、収穫 14 日前まで	2 回以内	ペンチオピラド
ガスタード微粒剤	—	20～ 30kg/10a	播種または定植 14 日前まで	1 回	ダゾメット
ディ・トラベックス 油剤	—	30～ 40L/10a	播種または植付の 14 日前まで	1 回	D-D、メチルイソチオ シアネート
バスアミド微粒剤	—	20～ 30kg/10a	播種または定植 14 日前まで	1 回	ダゾメット
バリダシン液剤5	500 倍	—	収穫 14 日前まで	1 回	バリダマイシン
モンカットフロアブル 40	2000 倍	—	土寄せ時但し、 収穫 30 日前まで	3 回以内	フルトラニル
モンカット粒剤	—	4～ 6kg/10a	土寄せ時但し、 収穫 30 日前まで	3 回以内	フルトラニル
モンガリット粒剤	—	4～ 6kg/10a	土寄せ時但し、 収穫 14 日前まで	3 回以内	シメコナゾール
リゾレックス粉剤	—	20～ 30kg/10a	土寄せ時但し、 収穫 14 日前まで	3 回以内	トルクロホスメチル

表3 有効成分ごとの総使用回数(平成27年8月5日現在の農薬登録内容)

有効成分名	総使用回数
シメコナゾール	3 回以内(は種時は 1 回以内)
ダゾメット	1 回
トルクロホスメチル	3 回以内
バリダマイシン	2 回以内(は種時の灌注は 1 回以内、散布及び株元散布は合計 1 回以内)
フルトラニル	4 回以内(種子粉衣は 1 回以内、全面土壌散布及び株元散布は合計 3 回以内)
ペンチオピラド	4 回以内(株元灌注は 2 回以内、散布は 2 回以内)
メチルイソチオシアネート	1 回